

## がん治療継続の是非を判断する計算式

ライセンス契約を受けていただき 本発明の実用化を目指していただける企業様を求めます。

体外診断用医療機器で測定される血液・生化学検査項目の数値を元に  
がん治療の継続などを判断できる数値が出力されます。

### ◆背景

がん患者の終末期のQOL（生活の質）を向上させるために、いつ化学療法を中止し、緩和ケアへ移行するかどうかを判断することは非常に重要です。従来方法として緩和予後スコア（Palliative Prognostic Score : PPS）がありますが、このPPSは、主観的なスコアであり、精度も非常に低く、最長で2ヶ月程度までしか予測できないことが問題でした。従って臨床医にとって緩和ケアへの移行をより正確に判断するには、客観的なスコアで、かつ高い精度で「生存期間」を予測することが求められています。

### ◆発明概要と利点

上記課題を鑑み、京都大学では、体外診断用医療機器で測定される血液・生化学検査から出力される3種類の数値を用い、計算式に当てはめることで終末期を予測する技術を発明しました。

#### ➢ 血液・生化学検査項目での体外診断用医療機器で出力される数値を活用

上記数値3種類を使い、計算式に当てはめるだけで、がん患者で最長6ヶ月先までの期間内でスコアを出力することができます。表1は各がん患者での1ヶ月単位での正答率を示しています。

表1 各がん患者の対象解析数と6ヶ月までの各月別での正答率（%）

	1 month	2 month	3 month	4 month	5 month	6 month
Lung	82.8	81.0	78.2	78.0	74.7	74.0
Pancreatic	85.1	79.8	77.1	76.2	75.2	72.8
Stomach	76.3	79.0	74.7	75.2	74.9	73.2
Colon	84.3	80.5	80.3	78.8	79.9	76.7
Breast	90.8	84.5	84.0	83.6	83.0	80.6
Rectal	84.5	77.7	75.7	77.1	77.7	76.4
Esophagus	81.4	77.8	73.0	75.1	70.4	68.9
Lymphoma	76.2	77.5	76.0	76.0	76.1	75.0
Liver	77.2	70.7	68.6	68.7	71.2	68.2
Bile duct	88.0	79.9	75.0	71.0	72.4	70.2
other	79.9	80.2	79.1	74.3	72.6	72.8

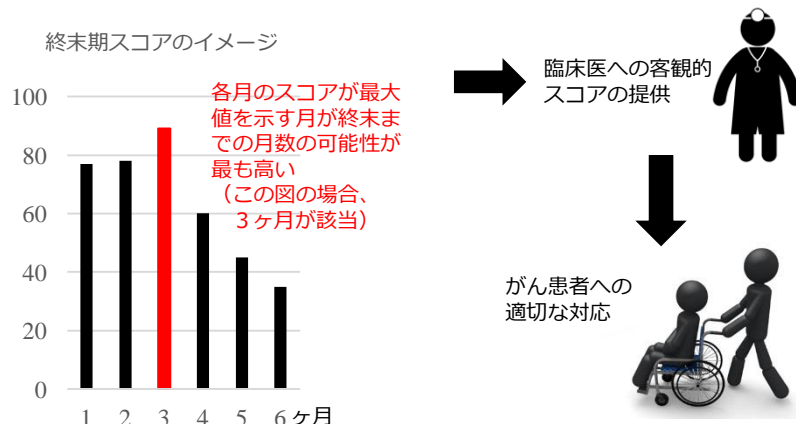


図1 本発明の使用イメージ

### ◆開発段階

➢ がん患者2,500名以上から解析された計算式を開発済み

### ◆発表状況

学会で発表済み

### ◆適応分野

➢ 体外診断用医療機器  
➢ 上記医療機器を活用した医療ソリューション・電子カルテなど

### ◆希望の連携形態

➢ 実施許諾（非独占/独占）  
➢ オプション（非独占/独占）

※本発明は京都大学および理化学研究所から共同出願です。

### ◆お問い合わせ先

京都大学産学連携担当

関西TLO株式会社

ライセンスング・アソシエイト

担当：清水 基宏

〒606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学 産官学連携本部内

(075)753-9150

shimizu@kansai-tlo.co.jp



関西TLO株式会社  
TECHNOLOGY LICENSING ORGANIZATION